

特 別 講 演

(総-7) 歌舞伎に廻り舞台のできた時のお話

早稲田大学教授 文博 河 竹 繁 俊

江戸時代のはじめの土木家に河村瑞軒(1618~1700)という人があつた。この瑞軒を主人公にした歌舞伎劇が、宝暦8年(1758)に大阪道頓堀、角の芝居で初演されている。三十石燈始(さんじつこくよぶねのはじまり)がそれだつた。

この劇の作者は、並木正三という大阪の人で、種々の考案に長じていた。右の劇曲の上演された時に、正三はその劇の仇討の場面を効果あらしめるために、廻り舞台について大きな発明をした。この発明は、今日の廻り舞台を示唆したものであり、また明治中期以後になつては、ドイツ、ロシア、アメリカ等に影響を及ぼし、現在諸外国のものは、じつに日本から輸入されたものである。

それらのことについて、簡単に申し述べたいと思つております。

図-1 初期廻り舞台の機構 註：舞台を廻す仕掛を舞台床下にした

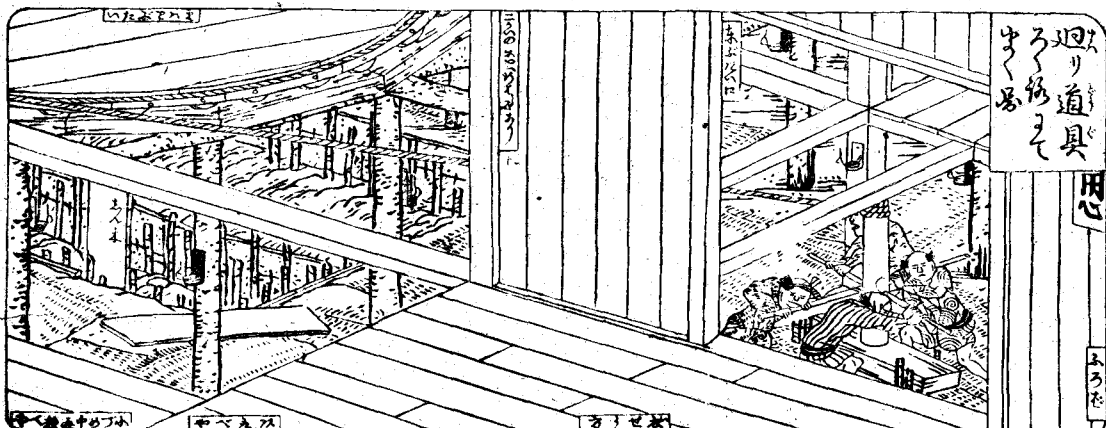


図-2 戯曲終幕
城内での仇討

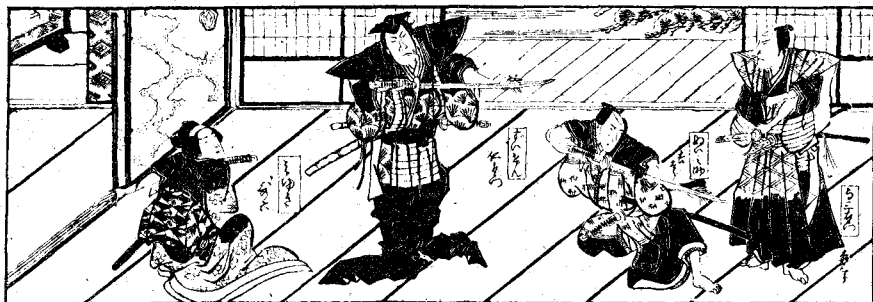


図-3 戯曲終幕
河中での仇討

註：同時に行われた
2つの仇討を場面を
ぐるぐる廻して見せ
るための発明